

誰でもできる『念写』

村田憲治@山県高校

明治時代の長尾郁子や三田光一に始まり、つい先日TVで放映していた清田益章に至るまで、『念写』を売り物にしたインチキ超能力者（インチキじゃない超能力なんてありませんが）は数限りなくいます。そしてそれを本当に信じている高校生がけっこういる（僕の学校で2割程度）ことに驚かされます。「これは何とかせにゃイカン」と考えて、教室で手軽にできる「念写セット」(?)をつくりましたので紹介します。

生徒さんの目の前で『念写』を実演する！

村田「みんな、『念写』って知ってるよね。ホントにできるかどうか実験してみようか。誰でもいいんだけど・・・。A君、あなたは自分で 靈感 が強い方だと思うかい？」

A君「はあ、どうですかねえ？」

村田「まあいいでしょう。さて、ここにポラロイドカメラがあるね。これで君の写真を撮るんだけど、そのときに君に何かを強く念じていてほしいんだ」

A君「そう言われても、何を念じたらいいんだか・・・」

村田「簡単なものでいいんだけどね。そうそう、ここにトランプがあるからこれを使おうか」（と、トランプの端を左手で持ち、右手でペラペラとはじくようにして中味を見せる）

村田「このトランプの束の端を指で押さえて、もう一方の端をこっちの指で持ち上げて、パタパタとカードをはじき落としていきますから、好きなところで『ストップ!』と言ってください。じゃ、いくよ」



A君「ストップ！」

村田「はい、ここですね。ではこの1番上のカードを取って見てください。僕に見せないようにしてくださいよ。いいですか？ じゃ、そのカードは君のポケットにでもしまっておいてね。では始めよう。そのカードの絵柄を頭の中で強くイメージしてください」

A君「はい」

村田「撮りますよ。いいですね」

（シャッターを切り、ポラロイドカメラから印画紙を引き出す）

村田「うまく写っているといいんだけどね」

（しばらく待つと、A君の姿が浮かび上がってくる。

そしてなんとA君の頭の横にトランプのカードらしきものが・・・）



村田「お、写っているね・・・。これは・・・、スペードの2だね。君の引いたカードはこれかい？」

みんなにカードを見せてやってくれる？」

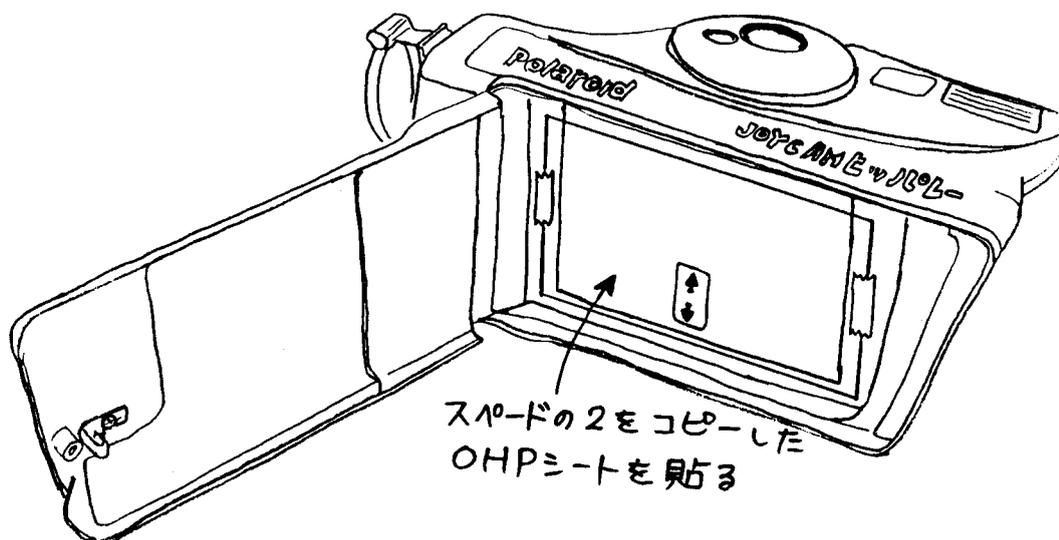
A君の選んだカードは、確かにスペードの2だ。そして、ポラロイドカメラで撮った写真にもはっきりとスペードの2が写っている。ざわついた教室が水を打ったようにシーンとなった。

ポラロイドカメラの中にこんな仕掛けをします

使用したポラロイドカメラは「ジョイカムヒッパレー」という3000円くらいのもので、次のような仕掛けがしてあります。

まず、スペードの2のカードをコピー機でタテが1.5cmくらいになるまで縮小コピーし、これをコピー機に入れられるOHPシートにコピーします。(普通のOHPシートを入れるとコピー機の中で融けてしまって大変なことになりますからご注意ください)

できあがったOHPシートをタテ6cm、ヨコ10cmくらいにカットし、ポラロイドカメラの中にセロテープで貼りつけます。カメラに印画紙カセットを入れると、印画紙とOHPシートが密着することになります。子どものころ遊んだ「日光写真」と同じ原理です。



あとはトランプからうまくスペードの2を引かせればいいわけです。これは手品の本を調べればいろいろな方法が載ってますからお好きな方法でどうぞ。

僕は1枚おきにスペードの2が入っていて、しかもスペードの2は他のカードより1mmほど長さが短い、というインチキトランプを使っています。このトランプを使えば、どこでストップをかけられても一番上のカードは必ずスペードの2になるのです。

ところで、当然この「念写実験」は続けて2回やっちゃダメです。生徒さんは必ず「たのむからもう一回やってくれ～」なんて言いますが、「こんな恐ろしいことはもう二度とやらん」などと言ってとりあわないことです。

期末テストで「実はあれはインチキだ。さてどうやったのでしょうか」という問題を出したら、生徒さんはけっこう面白いことを書いてましたよ。